2024 年 11 月

マンスリー・ハイライト　拝啓社長殿

マネジメントのための経営財務情報

今回のテーマ：　生成 AI と企業の未来

生成 AI の広がりと企業の動き

アメリカの法人 OpenAI が開発した対話型 AI「ChatGPT」によって、生成 AI のブームが始まりました。従来の人工知能（AI）は主にパターン認識に特化していましたが、生成 AI は自らコンテンツを生成する能力を持っています。文章、画像、音声、動画と多岐にわたる生成が可能で、この技術は誕生後瞬く間に世界中に拡散しました。そのスピード感は驚異的で、わずか数年で多くの企業の業務や製品開発の現場に不可欠な存在となっています。

生成 AI の導入にいち早く対応した企業は、さまざまな分野で大きな成果を上げています。例えば、レストランでのロボットによる配膳、製造業の品質検査や在庫管理、農業の作物選別や農薬散布、漁業の給餌装置開発、金融の不正検知や株価予測するなどです。最近の選挙では、SNS での声を要約して色別の点で意見の大きさを分布してビジュアル化するテレビ局もありました。

一方で、生成 AI の導入に慎重な姿勢を保ち続けたり、導入を後回しにしてしまう企業は、業務効率が低下したり競争力が弱まるリスクに直面する恐れがあります。生成 AI の活用が、今後の市場シェアや収益に影響を与える可能性を考慮することが重要視されます。

生成 AI が抱える課題と解決へのアプローチ

生成 AI の活用には課題もあります。例えば、次のようなリスクが懸念されます。

- 企業内部のデータを AI で利用する際、機密情報が外部に漏れる可能性
- 誤った情報や偏見が含まれるなど、正確ではない情報が生成されること
- 学習したデータが著作権侵害に該当すること

これらのリスクを考慮し、生成 AI に全てを任せるのではなく、人間が最終的なチェックを行うことが重要です。生成 AI を有効活用するためには、企業はガバナンスを強化し、リスクに備える必要があります。具体的には、次のことが求められます。

- 情報の管理と保護のためのルール設定（自社独自の生成 AI の開発や企業内規定を整備する）
- AI が生成する情報の検証プロセスの整備（情報を確認する専門チームの結成や、定期的な品質チェックを行う）
- 社員教育を通じたリテラシーの向上（生成 AI に関する知識やリスクについて研修する）

これにより、生成 AI は単なる効率化の手段にとどまらず、持続的な成長を支える戦略的なツールとなることが期待できます。また、技術変化の時代において、生成 AI に対して何もアクションを起こさないことが大きなリスクとなる可能性があります。すべての企業が同じように新たな技術の波に直面します。この事実を見過ごすことなく、変化にしっかり対応することが、業界での競争力を保つとともに、自社の成長を加速させる鍵となります。

お見逃しなく！

生成 AI の課題は、技術と組織文化の両面から取り組むことで改善可能です。導入準備と社員教育を進め、活用を恐れずに進化させることができれば生成 AI は大きな力となるでしょう。生成 AI の活用は新たなツールとしてだけでなく、企業運営の革新とビジネスモデルの進化にもつながります。今こそ企業としての方向性を定め、生成 AI を味方につけてビジネスの新たな可能性を秘めています。

© Grant Thornton Japan. All rights reserved.